

contents

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 表 | 裏 |
| ・放射線治療システムを導入 | ・診療科紹介 |
| ・第4回医療連携フォーラムのご案内 | ・2019年度がん看護研修のご案内 |
| ・2019年度版診療案内を発行 | |



編集：杏林大学医学部附属病院
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel 0422-47-5511 (代表)
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>
11/11(月) 創立記念日休診

■ 治療精度を高める 高性能の放射線治療システムを導入

放射線治療・核医学棟地下2階に、高性能の放射線治療システムとして、悪性腫瘍を治療する「エレクタバーサー HD」と、主に婦人科腫瘍を治療する小線源治療装置「フレキシトロン HDR」が導入されました。この2機は、今まで稼動していた機種の新機種の更新として導入されたものです。

最新機種の特長として、「エレクタバーサー HD」は放射線照射の対象となる悪性腫瘍の部位を、従来より正確に特定し、照射することが可能となります。これにより、周囲の正常組織への影響を軽減し、治療の効果を高めることが期待されます。

また、放射線治療は呼吸をした状態のまま行うため、呼吸による腫瘍の動きで照射範囲が広がること

りましたが、本機種では呼吸との同期した照射が可能となります。肺がんや食道がんなどで呼吸による腫瘍の動きが大きい場合には、照射範囲を小さく、しかもより正確に治療することが可能となり、治療の効果を高め、かつ副作用を減らすことが期待されます。

小線源治療装置「フレキシトロン」は、最新の高線量率小線源治療システムです。また、治療計画のためにCT画像を取得できるようになったことで、より詳細な治療をスムーズに行えるようになります。

フレキシトロン HDR は10月下旬に運用開始となり、エレクタバーサー HD は11月中旬頃から運用される予定です。



放射線治療システム「エレクタバーサー HD」



小線源治療装置「フレキシトロン」(右手前)

杏林大学医学部附属病院 第4回医療連携フォーラム

日程：11月14日(木) 当院 第2病棟4階 大学院講堂

【病院施設見学(希望者対象)】18時～18時45分

【第1部】19時～20時

市村正一病院長 挨拶、内原正勝三鷹市医師会長 ご挨拶、

塩川芳昭患者支援センター長 同センター紹介

≪講演≫

「糖尿病・内分泌・代謝内科：大学病院としての取り組み」

糖尿病・内分泌・代謝内科 安田和基 教授

「杏林大学医学部附属病院の地域連携に望む」

くぼかわ内科医院 窪川良廣院長

【第2部】20時～21時 情報交換会 外来棟6階 日比谷松本楼

皆様のご参加をお待ちしております

患者支援センター 地域医療連携

2019年度版 診療案内を発行



冊子をご希望の際は、患者支援センター
地域医療連携にご連絡ください。
TEL: 0422-47-5511 (内線 5147)

消化器・一般外科の改組について

元号が平成から令和に変わると共に、消化器・一般外科学教室では新たな診療体制がスタートしています。病院内の体制として診療科が臓器別（上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科）に分科しました。それぞれに診療科長（阿部、須並、阪本）が置かれ、スタッフも

いずれかの診療科に属するというものです。この体制変革の大きな目的は、より専門性の高い医療を責任を持って展開していくことに尽きます。新しい体制がスタートして半年が過ぎましたが、円滑に、高い専門性を持った診療が提供できていると確信しております。

◆ 上部消化管外科



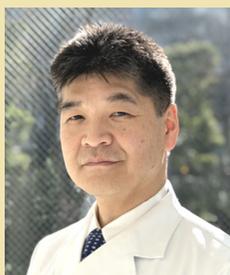
阿部 展次教授

食道科認定医、消化器外科専門医、内視鏡指導医、腹腔鏡外科技術認定医資格を有するスタッフが所属し、上部消化管（食道～十二指腸）領域疾患の内視鏡的治療（切除、焼灼、ステント治療）や腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術を積極的に行っています。このように、当科は内科的治療から様々な外科治療まで全てカバーできる数少ない外科施設として広く認知されています。また、低侵襲治療全盛時代を迎え、研修医に対する教育も重視しており、実践的な手

技の習得を目指し、腹腔鏡下手術のシミュレーターを用いた手術トレーニング、動物を用いた開腹・腹腔鏡下手術トレーニングなどを定期的に行っています。

社会問題になっている外科医減少の流れや、胃癌罹患率の減少という現実が見え隠れしていますが、医局員は定時手術のみならず、数多くの緊急手術をこなしながら研究、教育に携わっています。常に様々なリスクが伴う外科医療の特質をご理解いただき、今後ともご協力をお願い申し上げます。

◆ 下部消化管外科



須並 英二教授

大腸癌をはじめとし、炎症性腸疾患（IBD）の外科治療、痔核・痔瘻などの肛門疾患そして虫垂炎を含めた急性腹症など大腸肛門疾患全般の診断から治療までを幅広く手がけています。

大腸癌に対しては、腹腔鏡手術、ロボット支援手術等の患者に優しい低侵襲手術を根治性を損なうことなく可能な限り提供しています。特に直腸癌に対しては、肛門を温存することやあるいは肛門機能、排尿機能などの機能を温存することを重要視して

おり、そのために腫瘍内科、放射線科と連携して術前化学放射線療法など集学的治療も積極的に実践しています。

IBD に対しては、消化器内科との綿密な連携が確立されており、外科的治療を至適なタイミングで提供できる体制が整っています。

他科との連携を特に大事にして、安全で質の高い医療を実践することで地域医療に貢献したいと当科一同考えております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

◆ 肝胆膵外科



阪本 良弘教授

肝がん・膵がん・胆道がんは日本人の固形がん死亡原因の4位から6位を占めており、治療が困難ながん種です。しかし近年の外科手術技術や化学療法の発達、あるいはそれらを組み合わせた集学的治療の発達により、治療成績は確実に向上してきました。

当科では消化器内科、腫瘍内科、放射線科と協力して治療戦略を立て、進行した肝がんや膵がんに対しても、術前化学療法や

門脈塞栓術・二期的な切除の導入により切除率の向上を図っています。出血量の少ない、安全で確実な高レベルの外科手術の実践がモットーです。一方、肝胆膵外科疾患として最も頻度の高い胆石症は、内視鏡外科専門の森教授の指導のもと、安全確実な腹腔鏡下胆嚢摘出術を実践しています。

地域の関係機関の皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

2019年度がん看護研修【疼痛マネジメントコースのご案内】

	日程	テーマ	講師
第1回	11月29日(金)	がん性疼痛の基礎知識	竹内利加子 (がん性疼痛看護認定看護師)
第2回	12月20日(金)	がん性疼痛の薬物療法	田島紳介 (緩和薬物療法認定薬剤師)
第3回	2020年1月24日(金)	がん性疼痛のマネジメント	正保 智恵美 (がん性疼痛看護認定看護師)

1回目申込期限：11/22(金)

先着30名

※参加費無料、事前登録制

全3回の参加を推奨しますが、各回のみも可能です。

申込み方法など詳細は、当院ホームページをご覧ください。